

科目名	情報科学Ⅲ						
科目名(英)	Information ScienceⅢ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	高橋圭一		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて准教授として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	社会が望んでいる医療の情報化を実現する為に、情報の管理や情報の利用について正しく理解する事が不可欠であり、看護師の情報活用能力を高めることを目的とする。看護研究におけるデータ分析の実際としての統計処理を理解する必要があるため設定した。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技： ○	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			看護における情報処理システムについて説明できる。	
	○	○	○			統計処理・方法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	看護と情報科学の将来			配布資料の事前通読		
	2	統計処理の概要			配布資料の事前通読		
	3	統計処理の実際－名義尺度と順序尺度－			配布資料の事前通読		
	4	統計処理の実際－感覚尺度と比率尺度－			配布資料の事前通読		
	5	統計処理の実際－アンケートの統計－			配布資料の事前通読		
	6	記述統計(ヒストグラムの作成方法、正規分布とは)			配布資料の事前通読		
	7	看護研究に必要な検定の実際			配布資料の事前通読		
	8	t検定、χ <sup>2</sup> 検定			配布資料の事前通読		
	9	ノンパラメトリック検定			配布資料の事前通読		
	10	インターネットによる情報収集・文献検索方法およびその妥当性			配布資料の事前通読		
	11	ワープロソフトを用いた統計記述			配布資料の事前通読		
	12	保健統計学の基礎－人口静態統計－			配布資料の事前通読		
	13	保健統計学の基礎－人口動態統計－			配布資料の事前通読		
	14	看護における情報処理システム－蓄積データの活用－			配布資料の事前通読		
	15	看護における情報処理システム－看護計画－			配布資料の事前通読		
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。PC操作技術も含む。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験	◎	◎				80%
	実技演習			◎			20%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	外国語(英語)Ⅲ						
科目名(英)	Foreign language Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	マックス・ゴンザレス フェルナンデス		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	学校にて英語教師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	病院を受診・入院してきた患者への看護英会話(レベルアップ)2						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Obstetrics & Gynecology における問診ができる。	
	○	○				Childhood Health Problems Word を使って問診ができる。	
	○	○				Vaccinations の英語がわかる。	
	○	○				Surgery における患者への説明ができる。	
	○	○				手術名と人体内部の器官名の英語がわかる。	
	○	○				術後の状態を問診する英語がわかる。	
	○	○				薬の種類・用法などの英語がわかる。	
	○	○				心配事について尋ねることができる。	
○	○				文化や宗教の違いについて尋ねることができる。		
テキスト・教材 参考図書	こころの看護英語物語 Challenge Book						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Obstetrics & Gynecologyについて			配布資料の事前通読		
	2	Childhood Health Problems Wordについて			配布資料の事前通読		
	3	Vaccinationsについて			配布資料の事前通読		
	4	Surgeryについて			配布資料の事前通読		
	5	手術名と人体内部の器官名について			配布資料の事前通読		
	6	術後の状態について			配布資料の事前通読		
	7	薬の種類・用法について			配布資料の事前通読		
	8	心配事について			配布資料の事前通読		
	9	文化や宗教の違いについて			配布資料の事前通読		
	10	You're going to have a baby!(産婦人科)			配布資料の事前通読		
	11	My baby has a fever.(小児科/予防接種)			配布資料の事前通読		
	12	Your surgery will be tomorrow at 10 am.(手術)			配布資料の事前通読		
	13	How are you feeling?(術後/日常看護)			配布資料の事前通読		
	14	Are you worried about anything?(心のケア/文化や宗教の違い)			配布資料の事前通読		
15	病院を受診・入院してきた患者への看護英語について			配布資料の事前通読			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭試問と筆記試験にて評価を行う。</li> <li>・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	口頭試問・筆記試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	公衆衛生学Ⅱ						
科目名(英)	Public health Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	竹原直道		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	大学にて歯科医師・教授として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくために公衆衛生の動向を理解し、自分自身の健康づくりとともに、家族や職場、地域での総合的な健康支援について学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地球規模の環境と健康について説明できる。	
	○	○				職場における健康について説明できる。	
	○	○				産業保健、看護活動の展開について説明できる。	
	○	○				産業保健における今後の課題と働き方について説明できる。	
	○	○				健康危機管理と災害看護について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 公衆衛生 国民衛生の動向(厚生統計協会) 配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	環境と健康－地球規模の環境と健康－			配布資料の事前通読		
	2	環境と健康－身の回りの環境と健康－			配布資料の事前通読		
	3	職場と健康－職場における健康とは－			配布資料の事前通読		
	4	産業保健－看護活動の展開－			配布資料の事前通読		
	5	産業保健－今後の課題と新たな動き－			配布資料の事前通読		
	6	健康危機管理と災害－健康危機管理－			配布資料の事前通読		
	7	健康危機管理と災害－災害時における保健師の活動－			配布資料の事前通読		
	8	学校と健康－学校保健－			配布資料の事前通読		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	・筆記試験にて評価を行う。 ・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(竹原)	◎	◎				100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学方法Ⅲ						
科目名(英)	Mental nursing method Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	野中紀子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	ペーパーパシエントによる看護過程の展開を学ぶ。統合失調症の急性期・慢性期における看護上の問題の検討の中心として、急性期から慢性期の変化とともに起こり得る問題とその要因に対する理解が深まるよう構築する。						
授業形式	講義： ○	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				病態と人生背景や成長発達に関連について、情報から分析判断したことを説明できる。	
	○	○				急性期の病態の特徴を踏まえ、心理面・身体面・生活面への影響について分析判断したことを説明できる。	
	○	○				急性期の病態の特徴を踏まえ、必要な看護の方法について説明できる。	
	○	○				慢性期の病態の特徴を踏まえ、心理面・身体面・生活面への影響について分析判断したことを説明できる。	
○	○				慢性期の病態の特徴を踏まえ、社会復帰やその人らしい生活を送るための健康面を生かした看護の方法について説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヌーベルヒロカワ 精神看護学Ⅰ 精神保健学 第6版</li> <li>・ヌーベルヒロカワ 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版</li> <li>・東京アカデミー オープンセサミシリーズ 看護学3</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	精神看護学における看護過程の特徴			精神看護学の授業内容と精神看護学実習の振り返りと資料準備		
	2	急性期：看護過程事例紹介・情報収集			情報のクラスタリングを各自で実施		
	3	精神疾患患者の看護過程におけるアセスメントの視点共有			精神看護学実習ファイルからアセスメントの視点を振り返っておく		
	4	各グループに分かれ看護過程の展開～情報の分析・解釈～			時間外でのグループワークの実施		
	5	各グループに分かれ看護過程の展開～看護問題の明確化～			時間外でのグループワークの実施		
	6	各グループに分かれ看護過程の展開～看護診断の確認～			時間外でのグループワークの実施		
	7	各グループに分かれ看護過程の展開～計画立案～			時間外でのグループワークの実施		
	8	各グループに分かれ看護過程の展開～展開一連のまとめ～			作成内容の通読とプレゼンの検討		
	9	中間発表(グループの展開内容を他グループに発信、意見交換)			他者の質問・意見を聞いての修正検討		
	10	中間発表(グループの展開内容を他グループに発信、意見交換)			他者の質問・意見を聞いての修正検討		
	11	中間発表を受けての追加・修正			時間外での修正の実施		
	12	慢性期：看護過程事例紹介・情報収集			情報のクラスタリングを各自で実施		
	13	各グループに分かれ看護過程の展開～情報の分析・解釈/看護問題の明確化～			時間外でのグループワークの実施		
	14	各グループに分かれ看護過程の展開～看護診断の確認/計画立案～			時間外でのグループワークの実施		
15	各グループに分かれ看護過程の展開～展開一連のまとめ～			提出日のグループ作成物の提出			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワーク、個人で作成した看護過程レポート(80%)、授業に臨む姿勢などの態度面(20%)にて評価を行う。</li> <li>・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎			◎		100%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	成人看護学実習Ⅲ						
科目名(英)	Adult nursing practicⅢ						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 松ノ木幸恵		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	成人期にある対象を理解し、様々な健康状態にある対象に応じた看護を実践するために必要な基礎的技術・知識・態度を養う。また、生体機能の順調な回復を促がし、身体の回復状態に合わせてセルフケア再獲得のための援助を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				急性期を脱した身体状態をふまえ、回復に向けた援助が理解できる。	
	○	○	△			セルフケアが障害されている部分に対する援助が実施できる。	
	○	○	○			残存機能を考慮し、身体の回復状況に合わせたセルフケア再獲得への援助が実施できる。	
	○	○				回復への期待と不安を持つ対象および家族への心理的支援が実施できる。	
	○	○				生活の再編成にむけて、対象に必要な社会資源を考えることができる。	
	○	○				救急医療のシステムを説明できる。	
	○	○				救急患者の身体的、心理的、社会的な問題を説明できる。	
	○	○				救急看護の役割機能を説明できる。	
	○	○				救急看護における基本的な看護の実際を見学する。	
	○	○				ICU・HCUにおける患者の生活環境について説明できる。	
	○	○				生命危機状態にある患者への看護援助について説明できる。	
	○	○				生命危機状態にある患者と治療・看護処置との関係が説明できる。	
○	○				生命危機状態にある患者を取り巻く専門職間の協力・連携を説明できる。		
			○	○		看護師倫理に則して実習を行うことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	成人看護に関するテキスト、講義資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	2 週 間	身体情報のモニタリング			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		障害の拡大予防と機能回復の促進			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		セルフケア行動の判断と再獲得に向けた援助			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		障害受容の諸段階における心理的適応の援助			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		セルフケア再獲得の段階における治療や検査時の看護			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		セルフケア再獲得の段階にある対象を取り巻く医療チーム			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		保健医療福祉のなかで看護の果す役割			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		看護過程の展開			成人看護学に必要な資料の振り返り		
	1 週 間	救急患者の搬送・初療			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		救急患者のアセスメント、救急看護の役割機能			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		救急患者・家族への援助			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		ICU・HCUにおける物理的・人的・細菌学的環境			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		生命危機状態にある患者への看護			成人看護学に必要な資料の振り返り		
		生命危機状態にある患者のアセスメント			成人看護学に必要な資料の振り返り		
	他職種との協力・連携			成人看護学に必要な資料の振り返り			
評価方法	・評価者:指導教員と臨床指導者。 ・評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎	◎	30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	老年看護学実習Ⅱ						
科目名(英)	Gerontological nursing Practice Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 河村佳緒里		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	高齢者と健康障害をもつ高齢者の特徴および高齢社会における看護の果たす役割を理解し、老年看護に必要な知識・技術・態度を習得する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能と生活行動について説明できる。	
	○	○				さまざまな健康状態にある高齢者が、その人らしく望ましい生活を送るための援助について説明できる。	
	○	○	○			さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能の問題(課題)に対する強みを活かした看護の実施できる。	
	○	○				さまざまな健康状態にある高齢者の、家族支援や多職種連携の必要性、エンドオブライフケアについて説明できる。	
			○			高齢者の意思・尊厳を尊重する倫理的態度で実習を行い、自己の老年看護観を述べるができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学</li> <li>・老年看護学Ⅰ・Ⅱの講義資料、その他老年看護や病態に関する資料、配布資料</li> </ul>						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週間	さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能と生活行動の分析			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
		さまざまな健康状態にある高齢者の、その人らしく望ましい生活			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
		さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能の問題(課題)			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
		さまざまな健康状態にある高齢者が、その人らしく望ましい生活を送るための援助			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
		さまざまな健康状態にある高齢者の、生活機能の問題(課題)に対する強みを活かした看護の実施			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
		さまざまな健康状態にある高齢者の、エンド・オブ・ライフ・ケア			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
		さまざまな健康状態にある高齢者の、家族に必要な支援			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
		さまざまな健康状態にある高齢者の、望む生活に向けた多職種連携・チームアプローチ			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
		老年看護の役割と、自己の老年看護観			老年看護学の授業の復習 疾患について事前学習		
評価方法	評価者:指導教員と臨床指導者 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習記録用紙、発言・行動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	母性看護学実習						
科目名(英)	Maternity nursing practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 松藤沙弥香		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	病院にて助産師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	母性看護学実習では、周産期における対象者や家族に必要な看護を実践できる基礎的能力を養うとともに、母性を取り巻く地域の保健・医療・福祉の諸機関との関係について理解を深め、保健指導の必要性を学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				妊娠または産褥経過に伴う生理的・身体的変化・心理社会的変化の特徴を理解することが出来る。	
	○	○				妊婦及び胎児または産婦の状態や日常生活に伴う看護・保健指導を理解することが出来る。	
	○	○				分娩経過に伴う産婦と胎児の健康状態、生理的・身体的変化、心理・社会的変化の特徴を理解することが出来る。	
	○	○				新生児の子宮外適応現象および生理的・身体的変化の特徴・看護を理解することが出来る。	
	○	○				妊娠の経過や、妊娠期の日常生活に伴う看護を理解することが出来る。【外来実習】	
	○	○	○	○		対象者の援助に必要な看護技術を習得し、安全・安楽に配慮し実施することができる。	
	○	○				母性看護および対象者のセルフケア能力を高めるための保健指導を理解することが出来る。	
	○	○				母子および家族を取り巻くサポート体制を整えるための保健医療福祉の連携と継続看護の必要性を理解することが出来る。	
	○	○				継続看護の必要性と母子保健医療チームの看護者の役割を理解することが出来る。【外来実習】	
○	○				生命の尊厳や一人の女性が母親としての役割を獲得していく過程に関わることにより、母性看護の意義に対する考えを述べる事が出来る。		
テキスト・教材 参考図書	母性看護学の講義資料 その他、母性に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	3 週 間	妊娠期のアセスメントと看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		産褥期のアセスメントと看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		産婦のアセスメントと看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		新生児のアセスメントと看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		セルフケア能力を促進させる看護実践及び保健指導(育児技術・分娩準備・日常生活・母子保健サービスなど)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		セルフケア能力を促進させる看護実践及び保健指導(家族役割調整・育児技術・分娩準備・日常生活・母子保健サービスなど)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		母子保健・子育て支援に関する施策の活用				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		他職種・他機関との連携(社会福祉士・薬剤師・医師・栄養士・小児科・市役所など)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		病院から地域への継続看護				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		周産期医療システム				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		産婦人科外来実習(妊娠の経過や、妊娠期の日常生活に伴う看護)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		産婦人科外来実習(継続看護の必要性と母子保健医療チームの看護者の役割)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
		母性看護の意義(生命の尊厳・母親役割獲得過程・愛着形成・母子相互作用・母子の早期接触不妊外来)				母性看護学実習に必要な資料の振り返り	
評価方法	・評価者:指導教員と臨床指導者。 ・評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。 ・評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		レポート・発言・言動	◎	◎	◎		70%
		態度			◎		30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	精神看護学実習						
科目名(英)	Psychiatric nursing practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 野中紀子		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	精神障害を持つ対象の理解を深め、対象を取り巻く保健医療福祉チームの役割を学ぶ機会とした。精神障害を持つ対象との人間関係の構築のための治療的コミュニケーションを学び、また、対象との相互関係発展のため関係の振り返りが重要であることを理解し、振り返りにより対象理解・自己理解・相互関係の分析を学ぶ加えて、安全安楽な援助技術実施の機会とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神障害者及び家族への理解について説明できる。	
	○	○	○			対象の発達段階、健康障害、ニードやセルフケア、健康な側面を分析しながら看護援助の実践ができる。	
	○	○				患者—看護師関係の発展過程を理解し治療的かかわりの技法について説明できる。	
	○	○				精神医療における看護の役割と、社会復帰に向けた保健医療福祉チームの連携の重要性を説明できる。	
			○	○		看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	精神看護学の講義資料、学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	3 週 間	プロセスレコードを用いた対象との相互関係や関係発展過程の分析				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
		対象の病態・生活・人間像の情報収集の実施と記述				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
		情報の分析から問題の成り行きと看護の方向性の記述				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
		看護上の問題の判断と記述				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
		問題の優先順位の判断と記述				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
		看護計画の立案における目標の設定と具体策の記述				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
		立案した看護計画に基づく援助の実施と評価の記述				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
		精神症状の理解および精神科病棟管理、治療、検査等の把握				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
		精神科デイケア、外来の見学				精神看護学実習に必要な資料の振り返り	
精神科訪問看護の見学				精神看護学実習に必要な資料の振り返り			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価者: 指導教員と臨床指導者。</li> <li>・評価基準: 5段階評価 【認知・情意】(70%) 【態度】(30%) 100%を満点とし、60点以上を合格点とする。</li> <li>・評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎	◎	30%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	在宅看護論方法Ⅲ						
科目名(英)	Home nursing theory Ⅲ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	角美緒		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	ペーパーパシエントによる在宅看護過程の展開を学ぶ。終末期の成人期療養者の事例を通して、看護上の問題を中心として、在宅における予防的かわり、症状アセスメントの方法について学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		在宅看護介入時期別の特徴について説明できる。	
	○	○		○		紙上事例を通して終末期(成人期)の療養者の看護過程を展開できる。	
	○	○		○		様々な事例から、療養者と家族や、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実際について説明できる。	
○	○		○		様々な事例から、療養者とその家族の生活上の課題を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	系統別看護学講座 統合分野 在宅看護論						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	在宅看護展開のポイント 在宅看護過程				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	2	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__終末期事例(情報の理解、クラスタリング)				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	3	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__関連図				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	4	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__情報の分析・解釈				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	5	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__看護問題・優先順位、看護目標				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	6	在宅看護の看護過程の展開Ⅰ__看護計画				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	7	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__事例に対する看護過程の展開(基本情報(常在条件・基本的看護の構成要素・病理的狀態))				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	8	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__事例に対する看護過程の展開社会資源(介護保険・医療保険など)				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	9	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__事例に対する看護過程の展開(常在条件・基本的看護の構成要素・病理的狀態の関連)				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	10	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__事例に対する看護過程の展開(看護問題、看護診断・看護目標・看護計画)				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	11	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__【全体共有】脳梗塞、パーキンソン				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	12	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__【全体共有】認知症、小児				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	13	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__【全体共有】ALS,COPD				テキスト事前通読 適宜課題実施	
	14	在宅看護の看護過程の展開Ⅱ__【全体共有】独居、統合失調症				テキスト事前通読 適宜課題実施	
15	まとめ・振り返り				テキスト事前通読 適宜課題実施		
評価方法	・グループワークにて作成した看護過程のレポート(30% *グループワーク中の態度含)、講義内容の筆記試験(70%)、合計100%にて評価する。 ・60%以上を合格とし、59%以下は再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎		◎		30%
筆記試験	◎	◎				70%	
履修上の注意	出席時間が所定の3分の2に満たない者は、科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護の統合と実践 I						
科目名(英)	Nursing integration and practice I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	森山由香 渡邊恵美子 倉智恵美子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師、管理師長として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	病院や看護部門の理念に則り、患者満足度を高める環境づくりの考え方や、患者サービスにおける看護管理について理解を深める内容を教授する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				チーム医療における看護管理について説明できる。	
	○	○				看護管理システムの基礎について説明できる。	
	○	○				リーダーシップの概要について説明できる。	
	○	○				看護業務と看護労働について説明できる。	
	○	○				対象の安全を守る環境管理について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践[1]						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	看護の管理とは				配布資料の事前通読	
	2	看護職者間、看護職者と保健医療福祉従事者とのコミュニケーション				配布資料の事前通読	
	3	看護とリーダーシップ				配布資料の事前通読	
	4	看護職者のモラル				配布資料の事前通読	
	5	看護組織とその特性				配布資料の事前通読	
	6	看護方式(看護体制)				配布資料の事前通読	
	7	病院看護管理者の職務				配布資料の事前通読	
	8	看護の業務				配布資料の事前通読	
	9	看護業務と医師の指示				配布資料の事前通読	
	10	看護労働と労働条件				配布資料の事前通読	
	11	医療事故と法的責任				配布資料の事前通読	
	12	感染防止対策				配布資料の事前通読	
	13	インフォームドコンセント				配布資料の事前通読	
	14	看護におけるコンサルテーション				配布資料の事前通読	
	15	看護管理の原則と基礎				配布資料の事前通読	
評価方法	・4名の講師による講義内容を 筆記試験 各25% 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		筆記試験(森山)	◎	◎			50%
		筆記試験(渡邊)	◎	◎			25%
		筆記試験(倉智)	◎	◎			25%
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護の統合と実践Ⅱ						
科目名(英)	Nursing integration and practice Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	長田孝幸 竹中久美 長田順子 梶澤芳江		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	災害看護を通して他職種との協働や連携、また災害救助活動を通して国際協力についても考えさせる機会とする。加えて人々の生命を守り、生活を支援するという看護の原点に立ち戻らせることをねらいとする内容を教授する。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				災害医療・災害看護の概念を説明できる。	
	○	○				災害各期の看護活動を説明できる。	
	○	○				災害時の実際を説明できる。	
	○	○				看護の国際協力について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践[3] 講師配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	大災害訓練参加－被災者としての体験－				配布資料の事前通読	
	2	大災害訓練参加－救出・救護者の対応－				配布資料の事前通読	
	3	大災害訓練参加－災害時の看護師の役割－				配布資料の事前通読	
	4	災害医療				配布資料の事前通読	
	5	災害看護の定義と役割				配布資料の事前通読	
	6	災害サイクルに応じた看護活動				配布資料の事前通読	
	7	災害の種類別の被害の特徴				配布資料の事前通読	
	8	被災者および援助者の心理				配布資料の事前通読	
	9	災害看護				配布資料の事前通読	
	10	国際交流と国際協力のしくみ				事前課題実施	
	11	世界の健康問題の現状				事前課題実施	
	12	発展途上国に対する協力				事前課題実施	
	13	国際機関への協力				配布資料の事前通読	
	14	国際看護活動の実際				配布資料の事前通読	
15	看護の国際的活動の展開				配布資料の事前通読		
評価方法	・4名の講師による講義内容を1回の筆記試験 各25% 合計100%にて評価を行う。 ・筆記試験 60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	筆記試験(長田孝)	◎	◎				25%
	筆記試験(竹中)	◎	◎				25%
	筆記試験(長田順)	◎	◎				25%
筆記試験(梶澤)	◎	◎				25%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	看護の統合と実践Ⅳ						
科目名(英)	Nursing Integration and Practice Ⅳ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	花澤芳江		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	講義・演習の後に臨床実習(統合分野)へと続ける。ここでは実際の臨床場面を想定し、より臨床に則した状況下での総合的な判断・対応を模擬体験する内容を中心と知る。模擬体験後には、リフレクションを繰り返し経験により学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:		
				実技:	○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				看護の統合と実践Ⅳの位置づけについて説明できる。	
	○	○				臨床看護実践能力について説明できる。	
	○	○				複数事例を基に患者の多重課題・優先順位・時間配分を考慮した計画の立案ができる。	
	○	○				多重課題、時間配分、優先順位を考慮した計画を立案できる。	
	○	○		○		予定外の課題の場合、自己の判断による行動を試みることができる。	
	○	○		○		予定外の課題の場合、自己の考えを他者に報告・連絡・相談することができる。	
	○	○				患者の状態の優先性に気付くことができる。	
			○			看護師倫理に則して演習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	指定テキストなし。講師配布資料 全ての分野のテキストおよび、資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	統合分野、看護の統合と実践Ⅳの位置づけ				配布資料の事前通読	
	2	実践の看護業務実施における状況(多重課題、優先順位、時間配分予定外の課題)				配布資料の事前通読	
	3	専門職者に必要な実践思考能力				配布資料の事前通読	
	4	2事例を使った看護過程の展開(悪性症候群・うつ病)				配布資料の事前通読	
	5	2事例を使った看護過程の展開(血圧低下・便秘)				配布資料の事前通読	
	6	2事例を使った看護過程の展開(再梗塞:意識レベル低下・右上下肢麻痺)				配布資料の事前通読	
	7	2事例を使った看護過程の展開(低血糖・シックデイ)				配布資料の事前通読	
	8	2事例を使った看護過程の展開(反回神経麻痺・術後疼痛)				配布資料の事前通読	
	9	2事例を使った看護過程の展開(貧血・気胸)				配布資料の事前通読	
	10	2事例を使った看護過程の展開(インフルエンザ・アドボカシー)				配布資料の事前通読	
	11	2事例を使った看護過程の展開(PES方式を用いた記録)				配布資料の事前通読	
	12	看護の統合と実践の経験:学内実習(膀胱留置カテーテル演習)				配布資料の事前通読	
	13	看護の統合と実践の経験:学内実習(グループ内でのリフレクション)				配布資料の事前通読	
	14	看護の統合と実践の経験:学内実習(教員評価)				配布資料の事前通読	
15	看護の統合と実践の経験:学内実習(自己課題分析)				配布資料の事前通読		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技評価は、様々な事例に対する経験を通し形成評価を重ね合計80%とする。</li> <li>・評価:提出レポート内容(20%)</li> <li>・成績評価基準は、A(91点以上)・B(81点以上)・C(71点以上)・D(61点以上)・E(59点以下)とする。</li> <li>・60%以上を合格とし、59%以下は、再試験対象となる。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技評価			○	○		80%
レポート評価	○	○				20%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	在宅看護論実習						
科目名(英)	Home nursing Practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 角美緒		
実施年度	2022年度	実施時期	通年	担当者実務経験	病院(施設)にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	地域や在宅で療養する対象を知るため、概論・方法論で学んだ知識を活用し、医療・保健・福祉の視点から学べるよう、さまざまな場所(市町村・ステーション・外来など)で実習をおこなう。実習形態は在宅実習3週間のうち2週間は訪問看護ステーション、1週間は市町村保健センター・社会福祉協議会・在宅介護支援センターなどで実習する。さらに、1日外来実習(透析センター・ストーマ外来)にて実習し、在宅療養者に対する外来での関わりや看護も学ぶ。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域保健福祉活動を実践している機関の機能と役割を説明することができる。	
	○	○	△			在宅で療養する人・生活自立が困難な人とその家族の生活上の問題を理解し、療養の各段階における看護援助方法(予防的かかわり、自立支援、終末期看護など)を説明することができる。	
				○	○	看護師倫理に則して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	在宅に関する学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 週間	個人および・家族・集団に対する健康上の問題にかかわる専門機関の機能・役割				在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
		専門職の役割(地域保健福祉活動を通して)				在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
		地域における関係機関(病院・福祉事務所など)および他職種との連携・協働				在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
	2 週間	在宅療養者とその家族を「生活者」としてとらえる				在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
		在宅療養者とその家族の療養上の問題				在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
		疾患や障害が対象に与える影響と予防的かかわり				在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
		訪問看護援助方法				在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
		社会資源の活用方法とケアマネジメントの重要性				在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
		他職種との連携・協働				在宅看護論実習に必要な資料の振り返り	
環境	評価者:臨床指導者 評価割合:訪問看護ステーション(70%)、市町村(30%) 評価基準:5段階評価【認知・情意】(70%)、【態度】(30%) 100点満点とし、60点以上を合格点とする。 評価方法:記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・行動	◎	◎	◎			70%
態度				◎		30%	
履修上の注意	出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						

科目名	統合実習						
科目名(英)	Integrated Practice						
単位数	2単位	時間数	90時間	担当者	臨床指導者 梶澤芳江		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	看護科・3年						
授業概要	3年間の集大成として到達させるべく目標に添うために、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野(在宅看護論)実習で学んだ後にカリキュラムの最後に位置づけた。ここでは再度、既習の知識・技術・態度を統合させて学ばせられるよう、臨地実習を含む3年間のカリキュラムを通し、実務に即した臨床実践能力を身に着ける						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				チームリーダー・メンバーの役割を説明することができる	
	○	○	△			看護管理の実際を知ることにより、チーム医療における看護の役割と機能を説明することができる。	
	○	○	○			複数患者の看護を通して、看護の優先順位・時間管理について説明し、実施できる。	
	○	○				夜間帯での患者の状況を知ることにより、患者を総合的に理解したことを説明することが出来る。	
			○	○		看護師倫理に則して実習を行うことが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	看護の統合と実践Ⅰ～Ⅳの講義資料 その他、3年間の学習資料 実習要綱						
授業計画	週	授業項目・内容			授業外学修指示		
	3 週 間	コーディネーターの役割と業務の実際			統合実習に必要な資料の振り返り		
		病院組織における看護管理			統合実習に必要な資料の振り返り		
		病棟管理者の役割と業務			統合実習に必要な資料の振り返り		
		複数受け持ち患者への看護の実際			統合実習に必要な資料の振り返り		
		看護計画の修正・評価			統合実習に必要な資料の振り返り		
		複数患者間における援助実施・優先順位の判断			統合実習に必要な資料の振り返り		
		適切な時間管理(実施時間・時間配分)			統合実習に必要な資料の振り返り		
		作業中断時におけるスタッフへの依頼			統合実習に必要な資料の振り返り		
		夜間体制の業務内容の見学			統合実習に必要な資料の振り返り		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価者: 指導教員と臨床指導者。</li> <li>・評価基準: 5段階評価【認知・情意】(70%)【態度】(30%)、100%を満点とし、60点以上を合格点とする。</li> <li>・評価方法: 記録用紙、発問・発言、行動観察法とする。</li> </ul>						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	評価割合
	レポート・発言・言動	◎	◎	◎			70%
	態度				◎		30%
履修上の注意	・出席時間が所定時間の3分の2に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。						